

◆ 灌水リレーで花を救う！



会が手掛ける花壇の花々は、驚異の生命力で甦りました。今年の夏は、例年になく、植物に厳しい熱暑が続きました。その熱暑を乗り越えた裏には、この長期間、熱心な会員の週交代での灌水リレーによって、図書館前花壇やJR古賀駅前花壇などの花々の命を支えてきました。

その後9月に入って、秋雨前線が雨を持ってきたことで安定状態に入りました。花々は会員の支えに正直に応え、今では、花がみずみずしく花壇を飾っています。

◆ ハボタンの鉢上げ終わる！

9月13日の“はなちどり”定例会は、天候も秋の気候に変わり、作業としては、今シーズン最後のハボタンの鉢上げを12名の会員の手によって、すべて完了しました。

その結果、ビニールハウスの中には、ハボタン苗と鉢上げを待つパンジーの幼苗が広がっています。



◆ 6年生医王寺山へつる切！



台風12号くすれの雨が上がった9月8日、植林後6年を経過した医王寺山のつる切作業に7名の会員が参加しました。

現地は、枯れ枝が残り、竹の侵入があり、つる性のセンニンソウやハクソカズラがかなりの密度で地上に這っていて、クズと同様に立木に巻き上がっていました。皆さんは、そのツルの根元を探し、根気よく切り続けました。

森は、手を入れた分は必ず成果で応えてくれます。作業終了後、皆さんは、缶コーヒーを森の生き返りと共に充実感で飲み干していました。

◆ パンジーの種播き～鉢上げ！

8月30日の“はなちどり”定例会は、会員12名が集り、パンジー（よく咲くスミレ）のセルポットへの蒔き付けをしました。

時期としてやや遅いのですが、今年の夏は気温が高く、パンジー発芽適温の20度には高すぎたため、時期を遅らせていました。月末になり、やっと気温が低くなったことから種蒔きにこぎつけました。皆さんは、極小の種を慎重にセルポットの中に1個ずつ落として11ケースの蒔き付けを終わりました。

例年「まつり古賀」に出品するので、今年は間に合うか気がかりでしたが、3週間で予想以上に元気な若苗が育ち、台風の余波が残る20日には、8名の会員で鉢上げに精を出しました。

この日の鉢上げケースは、44ケースに上り、ハウス内は花苗で埋まってしまいました。



◆ ドングリを集めよう！



今秋は、例年になく行事が多く、どんぐりの需要が拡大しています。

どんぐりを使うのは、11月20日の「まつり古賀」の出店品、10月13日の古賀東小学校（89名）のどんぐり工作、続いてグリーンパークで開催の11月23日のプレーフォレストでのどんぐり工作、11月25日の青柳小学校（49名）のどんぐり工作と目白押しで、多量のどんぐり確保が必要です。

会員の皆さんのご協力をお願いします。

◆ Gパークに道標たてる！

残暑残る9月17日は、2名の会員で古賀グリーンパークに1本の道標をたてました。

初めて公園内を散策する方が、行く先に何があるか分からないと、歩くのをためらうことがあり、案内道標をたてたものです。

今後、新たに作った歩道にも、現場に応じた道標を作って、順次、現場にたてる予定にしています。



◆ 拠点の看板補修



“はなちどり”のマスコット看板が、能古島近海で8月29日に発生した竜巻の強風で、30日の朝、倒れていました。

これは平成17年の開設時に設置したもので、脚部分の老朽化が進んでおり、腐蝕したところに強い風があたり倒れたものでした。

そこで、4名の男性会員は、早速、新しい木材で脚を継ぎ足し、看板の腐朽部分を切り離しました。9月に入って看板に油性ペンキで上塗り塗装して、6日から元の場所に新たな姿を見せております。

◆ Gパーク歩道草を刈る！

9月1日2名の会員が、古賀グリーンパークの植林地に通じ、来園者の散策路である歩道の草刈に努めました。

今年8月は連日の暑さが続き、刈払機を肩に掛けて草刈作業をすると、一気に汗が噴き出していました。

作業中に、園内散策のご夫婦が通りかかり「お疲れさま」と、声をかけていただき、しばし、雑談を交わした後、互いに「気を付けましょう」と、さわやかな会話をすることができ、「草を刈っていて良かった」と実感しました。



四方山話

活動がつづくわけ

8月7日の生涯学習推進課企画の「笑顔のつどい」講演会の席上で、コメンテーターから「なぜ、16年間も会活動は続くのですか？」と問われ、説明すれば長くなりそうなので、要約して「郷土愛ですね」と答えました。ところが後日、答えは適切だったのかと、ふと、自問自答していました。

この自問自答をネタに園芸福祉拠点の“はなちどり”作業後のリラックスした場となる茶会席上で会員の皆さんに前述の「なぜ16年間も会活動は続いたのですか？」と問いかけました。即、帰ってきた言葉は「楽しいから！」お見事！まっ正面の言葉が帰ってきました。その後、次々にユーモアを交え「辞められないから」「活動で結果が見えるから」「森が育つのは楽しいから」「愛情があるから」「命があるから」「甦るから」と続きます。そして対人関係として「話し相手がいる」「雑談ができる」「情報の交換がある」など、孤立を回避する仲間意識が漂います。また、健康維持について「散歩です」と50分を越えて、医王寺山やグリーンパークまで歩いて森づくりに参加する女性会員もいます。さらに「元気だから」「元気が出るから」「元気をもらうから」と健康寿命延伸意識が根を張っているように思えます。そして「二本柱の理念が好き」と園芸福祉と森づくりの二本柱組織の評価もありました。皆さんの一つ一つの言葉には含蓄があり、バランス感覚に富む素晴らしい答えでした。さて、私の発信した「郷土愛」は、ひとカケラの言葉もなく惨敗でした。

会員の高齢化は進んではいるとはいえ、この力強い言葉にやや圧倒されつつ「今後、ますます会員一同知恵と力を結集して、さらに発展する会になるよう努めなければならない」と、思った次第です。

古賀市緑のまちづくりの会 代表 宿理 英彦

通信発行連絡先；宿理 092-944-5924

“緑のまちづくりの会” HP アドレス ⇒ <http://www.koga-midori.com/>